

# 狭山

## 私たちの国際交流プログラム

2000. 8. 25 (Fri) ~ 27 (Sun) / 2000. 12. 10 (Sun)

国際協力事業団・八王子国際研修センター (HITC) の協力をえて、世界の国々の青年との交流による国際的な視野の拡大と相互理解を目指し開催してきたこの事業も、今年で15年目を迎えることとなった。

今回は、8ヶ国10名の研修員の方を招き、日本からの17名の青年とともに、野外活動を中心としたプログラムで2泊3日を過ごした。

### 私たちの国際交流プログラム I 2000. 8. 25 (Fri) ~ 27 (Sun)

今回の企画は、ワーク・ショップ(参加型体験学習)形式によるグループ活動を中心としたプログラムです。そのため、全人数を30名程度になるように調整を図って実施した。

招待した10名の研修員は、電子・機械・建築・情報工学の分野の職業指導やハンセン病予防医学について研修を受けるために、6ヶ月から1年の期間で日本に滞在し、今回の参加においても、日本の青年に自国をPRしたいという意気込みと、日本の歴史や文化について多くの青年から積極的な話を聞き、学びたい、という意欲と向学心に溢れていた。

一方、日本からの青年たちの中には、すでに海外旅行や留学等で多くの海外経験をもっている人、また、地域で日本語教室の指導や外国人の生活サポート等のボランティアに関わっている人もいる反面、外国人と接する機会がほとんどなく、今回の国際交流プログラムで何かきっかけをつかみたいという人もいて、経験や参加目的もさまざまであった。

### 準備と企画——地域との連携——

本事業の準備と企画にあたっては、本事業を単に交差的

な事業で終わらせられるのではなく、その後も地域の国際理解の推進や交流に繋げていくことを考慮して、青年の家の隣の国際交流協会や市民グループに協力を要請した。

その結果、「東村山地球市民クラブ」、「小平市国際交流協会」及び「東大和市国際交流同好会」からそれぞれ推薦があり、6名のスタッフの協力のもとに準備をすすめることとなった。

特に、今回は6名の内、外国人2名の推薦があり、かれらにはその経験と実践を生かして、研修員と日本からの参加者とのコミュニケーションをとる中心的役割を担うとともに、外国人の視点でのプログラムチェックや、雰囲気盛り上げのための提案やアドバイスも受けることにした。

### 交流の数々

1日目をスタッフ、2日目を日本からの青年、最終日を研修員、の順に主役を交代しながら3日間の日程をすすめた、(1) 出合いのセッション、(2) 小江戸・川越タウンウォッチング、(3) エスニック料理とガーデンパーティー等の各プログラムにおいても、すべての参加者が、必ず何かのプログラムに関わっていきけるよう、役割や分担を工夫した。

さらには、各人の特技や趣味を生かした「ゆかたの着付

け」や「民族ダンス」、「花火大会」等のオプションや自由プログラムも飛び出し、盛り沢山の内容となった。



町のことを知るには、先ず博物館から。「機織り」にも挑戦!

参加者の感想の中には、「コミュニケーションがうまくとれず、最初は些細な誤解や意見のすれ違いもあったりすることかと思いましたが、3日間の体験で、国の文化や習慣、考え方が違っていても、お互い分かり合える部分を探し出せることに気づき、それが大きな自信になりました。」とあるように、最初は、戸惑いや緊張の面持ちでいた青年たちも、後半にはリラックスした雰囲気での交流を楽しみ、また、それぞれに一応の成果や手応えを感じていたようであった。



Look & Walk 「蔵造りの町並み」 「菓子屋横丁」 etc...  
小江戸・川越は、素朴な人情に心が和み、ちよつと得た気分になれる町

また、閉会時には、タウン・ウォッチングで撮ったグループの写真分け合いながら再会を誓い合う姿や、感動に浸ってなかなかその場を離れようとしなない人もいて、最後の最後まで別れを惜しむ姿がみられた。



「自己紹介カクテルパーティー」「発見! 一つの世界」「私流の国際交流」等、いろいろな出合いを考えながら、研修員を迎える準備。

## 私たちの国際交流プログラム II 地域の国際化と異文化コミュニケーション ~交流・実践のためのミニ・ワークショップ~ 2000. 12. 10 (Sun)

事業終了後も、地域の国際交流のつどいに出かけたり、グローバル・パーティーに出席したりと、参加者同士で、また、個々のレベルでの交流や新しい交流が始まっているようであった。

しかし、その一方で「ワークショップの手法を学んで、地域で実践したい」、「地域で国際交流をすすめるためのノウハウを学ぶ機会がない」という意見や要望もあり、改めて、スタッフ6名に協力を要請し、国際交流実践のための「ミニ・ワークショップ」を開催することになった。

当日は、「出合いのレクリエーション」をはじめ、「ブレインストーミング」、「グループの成果発表」に「外国人からのメッセージ・コーナー」を加えて、ワークショップの基本に関わるルールや手法を実体験しながら学習していく内容で行った。

**1A1人が主人公-参加型学習会 (ワークショップ) プログラム**

PART1 <9:30-10:00>  
●出合いのレクリエーション  
「体験を共有し、一私にとっての身近な国際化・国際協力」  
\*アイス・ブレイク  
\*第三世界のCOG(国)  
\*「元」よりココロをくまなく(元)からあふれ出す(元)の国際化  
\*コミュニケーション・練習クリス(ワイルド・ダンス・カンパニー、第15年)

PART2 <10:10-11:10>  
●参加型学習の手法によるワークショップ(グループ・ワーク、グループ・ディスカッション)  
「異文化コミュニケーション」の基礎-市民による地域の国際化(実践)  
●実践-後、前編(実践)として実施して7年、実践(実践)の経験から実践-市民による地域の国際化(実践)  
\*コミュニケーション・練習クリス(ワイルド・ダンス・カンパニー、第15年)

PART3 <11:20-12:30>  
●振り返り、行進する21世紀(21世紀) (21世紀) (21世紀) (21世紀)  
「地域で実践! 地域におけるグローバル化」

共に学び合うところから実践への一歩を踏み出して、その経験が地域で、あるいは国際的な舞台で、どのように生かされるか、今後、大いに楽しみながら進んでいく。



慣れない野外の調理に悪戦苦闘。見た目はともかく、味は保証付き!